

6 校舎建設情報

前号では建築工事を受注した大山・野州共同事業体の細野所長にお話を伺いましたが、今回は、建物の整備を依頼した一般財団法人川崎市まちづくり公社で建築を担当している藤田職員にお話を伺いました。



Q はじめに、まちづくり公社の概要を教えてください。

A まちづくり公社では主に公共施設の整備を支援しており、学校の建設に関する実績は、小・中・高あわせて15校あり、中原区内では井田小学校、今井中学校、橋高校の改築を行いました。



Q 建設中の小学校の魅力について教えてください。

A 川崎市では木材の利用促進を進めており、学校でも木材を積極的に使用していますが、建設中の小学校はこれまで以上に木材を使用し、木に囲まれた心地よく温かみのある空間を提供できるとしています。また、災害に強い学校づくりを目指し、災害時に断水した際にも屋上プールの水を使用した仮設トイレ、蓄電機能を備えた太陽光発電、可搬式発電機の整備等を行います。



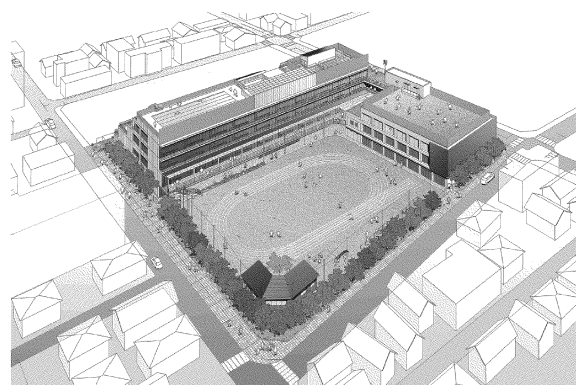
Q 意気込みをお願いします。

A 近年の小学校は、学校としての機能だけでなく、施設の開放や災害時の避難拠点になるなど、地域の方々にとっても身近な建物となってきており、その重要性を感じています。地域の方々に愛される小学校を作りたいという思いで、工事は地域をよく知る地元の建設会社が施工しています。工事でも本格的になってきました！来年12月の完成に向けて地域の皆様に協力いただきながら、より良いものを作っていきたいと思っています！



メモ

皆様にとって身近な小学校にしていきたいという思いから、毎月の工事進捗状況をまちづくり公社HPに掲載しています。
<http://www.machidukuri.or.jp/>
 こちらでは工事写真のほか、現場での取組や工事に係る人の紹介などを分かり易く解説しています。また、中原区役所、中原市民館、中原図書館において、工事のお知らせを掲示しています。是非ご覧ください！



完成予定（鳥瞰図）→

お問い合わせ先

川崎市教育委員会事務局 教育環境整備推進室 学校整備プロジェクト推進担当

御意見や御質問については、Eメール又はFAXにてお願いいたします。

〒210-0004 川崎市川崎区宮本町6

電話：044(200)3319 FAX：044(200)3679 Eメール：88seibi@city.kawasaki.jp

会議での資料、これまでの検討経過等を含め、新設校に関する内容についてはホームページからも御覧いただけます。
<http://www.city.kawasaki.jp/880/page/0000080750.html>

小杉駅周辺地区新設小学校ニュース

第5号（平成29年12月）

新設小学校開校まで1年半を切りました。

今回は新たに提案された特例措置や通学ルートの検討状況を中心にお知らせします。

1 開校時特例措置を提案しました。

保護者の皆様等から環境の変化による児童の不安や心配が大きいため、新設小学校の通学区域となっても引き続き現在の学校に就学できるように配慮してほしい旨の御意見を多数いただきましたので、聴聞会において次のとおり特例措置の提案をしました。

- 対象地域 ・小杉町2丁目地域内に在住の西丸子小学校児童
・小杉町3丁目地域内に在住の今井小学校児童
- 適用対象 ・平成31年4月1日時点で、新5年生・6年生になる児童
・上記の児童の兄弟姉妹にあたる児童
※新設校開校時点に限り適用します。



特例措置とは？

指定された学校以外の学校へ就学する「指定変更手続き」における特例措置という考え方で、通常の指定変更手続きでは校長の所見を必要としますが、特例措置の対象となる場合は、区役所への申請だけで指定変更が認められます。

□主なご意見内容

- 特例措置の対象学年を5・6年生とした理由を教えてください。
 <市教委> まとめの学年であること、これまで構築してきた友だち関係や先生との信頼関係、5年生は自然教室、6年生は修学旅行といった行事を控えていること等を考慮し、高学年を対象とした提案とした。
- 現在、幼稚園・保育園の年長の児童は、1年間通学し、友だちも出来て学校生活に慣れたところだと思う。対象地域だからという理由だけで、2年生から新設校に通学することになるというのは、高学年同様に配慮すべきではないか。
 <市教委> 個々に様々な状況があるのは理解しているが、特に高学年については、小学校生活が残りに少ない中で友だちや先生とこれまで築いてきた関係等は考慮すべきと判断した。
- 低学年・中学年は新設校に通学してもらうとのことですが、対象となる児童へのケアの方法等については、どのような方策を検討しているか教えてください。
 <市教委> 心のケアの重要性は認識しているので、ケア担当部署と連携を取りながら対応について検討を進める必要があると思っている。
- 特例措置案が適用された場合の学校規模の想定値を教えてください。
 <市教委> 特例措置を行わない前提での5年生の児童数を62名、6年生を49名、それぞれ2クラスと想定している。仮に5・6年生の全児童が特例措置を行使した場合、1～4年生までで10クラス程度の学校規模になると想定している。
- 特例措置の対象とならなくても、指定変更手続きを行えば引き続き今井小学校又は西丸子小学校に通学できるか。
 <市教委> 原則として、指定した通学区域の学校に通学していただいている中で、家庭や個人の特別な事情から止むを得ず指定校を変更する必要がある場合に限り、区役所で指定変更の申請をすることができる。引き続き今井小学校又は西丸子小学校に通学したい場合は、現在通学している学校及び新設小学校に御相談していただく必要がある。

●今後のスケジュール(予定)

- 平成29年中…………… 通学区域・特例措置決定
- 平成30年3月頃…………… 学校名決定

2 学校名は「小杉小学校」を提案しました。

「小杉小学校」と「こすぎ小学校」の2案に絞り込んでいた学校名は、小杉小学校を提案しました。

- 提案理由
- ①設置場所の地名を基に、周辺の歴史的背景等を考慮する
 - ②設置場所の町丁名が小杉町2丁目であること
 - ③駅名など漢字表記が広く認識されていること

※学校名は条例改正手続き後に正式に決定します。

3 学校名はどっち？模擬投票を実施しました。

西丸子小学校と今井小学校の6年生を対象に「小杉小学校」と「こすぎ小学校」のどちらがより新設小学校の校名にふさわしいか、立会い演説を行うとともに川崎市選挙管理委員会などの協力を得て、実際に選挙で使用される投票箱、記載台を使い、選挙立会人に見守られながら模擬投票を行いました。

演説内容

漢字派

- ・地域に合って一体感がある。
- ・低学年でもわかりやすい。

ひらがな派

- ・親しみやすさ、やわらかさがある。
- ・周辺の学校にはなく、真新しいイメージを感じる。

- 西丸子小学校の結果
- 今井小学校の結果

- 漢字61票 ひらがな26票
- 漢字59票 ひらがな91票 無効1票

投票しての感想

- ・地域や駅名に漢字が使用されているので、統一しているほうがいい。
- ・親しみやすいという演説に納得した。
- ・選挙は大人がやるもので難しいイメージだったが簡単だった。
- ・選挙は候補者を選択するだけでなく、自分たちのまちづくりに繋がっていることがわかった。



選挙マスコット
イックン

4 聴聞会・公聴会を開催しました。

学校関係者及び地域の皆様に学校名と通学区域などに関して御意見を伺うため、8月24日に西丸子小学校、8月29日に今井小学校で聴聞会、9月4日に中原区役所で公聴会を開催いたしました。詳細はHPに掲載しています。

5 通学ルートの現地確認を行いました。

11月1日(水)に今井小学校の保護者及び未就学児の保護者の方に参加していただき、通学ルート確認と情報交換会を行いました。

(仮称)小杉小学校通学ルート(案)



※カラーの地図をHP上に掲載しています。